

尾関周二 業績目録

凡例

1. 業績の区分について
 - a. 単著および尾関先生が編者たる共著書の一覧を「A.著書一覧」とした。
 - b. 雑誌掲載論文および尾関先生が編者ではない書籍に寄せた論文の一覧を「B.論文一覧」とした。
 - c. 翻訳・調査報告・エッセイ・解説・辞典の項目など上記のものに当てはまらない文章は「C.その他」とした。
 - d. 尾関先生が学会等で発表または講演されたものは「D.口頭発表・講演」とした。
 - e. 区分基準については東京農工大学ホームページの区分も参考とした。
2. 文献について
 - a. 文献などは新しいものから順に掲載している。
 - b. 雑誌情報については巻数, 号数, 頁の順に記載している。なお、Vol.、No.とあるものもそれぞれ巻、号に変換した。
 - c. 雑誌などの編者は省略した。
 - d. 外国雑誌名および発表学会名は原則としてアルファベットで記述し、イタリック字体としている。非欧文雑誌は出版国を英語で雑誌名の後に記載した。また、掲載時に各国語に翻訳されたものは翻訳言語を論文名の後に英語で記載した(尾関先生が直接各国語で書かれたものは除く)。
 - e. 単行本には単著・共著問わず出版社を記載した。
 - f. 「C.その他」の内容には表題の後に文章の種類を記載した。
 - g. 辞典の項目については、「項目名」:頁の順で記載した。
 - h. 「D.口頭発表・講演」の内、2001年以降のものは日にちまで記載した。

(記 永谷敏之)

A. 著書一覧

1. 『〈農〉と共生の思想—〈農〉の復権の哲学的探求』(共編著)
農林統計出版株式会社 2011年10月
2. 『共生、共同、連帯の未来』(共編著)
青木書店 2009年8月
3. 『現代に挑む哲学—日中共同研究：東アジアの観点から—』(共編著)
学文社 2007年11月
4. 『共生社会システム学序説』(共編著)
青木書店 2007年7月
5. 『環境思想と人間学の革新』
青木書店 2007年4月
6. 『環境思想キーワード』(共編著)
青木書店 2005年5月
7. 『アーレントとマルクス』(共編著)
青木書店 2003年9月
8. 『ターミノロジー学の理論と応用』(共編著)
東京大学出版会 2003年2月
9. 『増補改訂版 言語的コミュニケーションと労働の弁証法』
大月書店 2002年10月
10. 『「共生」思想の探求』(共編著)
青木書店 2002年9月
11. 『エコフィロソフィーの現在』
大月書店 2001年7月
12. 『戸坂潤 科学と文学の架橋』(編・解説)
燈影舎 2001年1月
13. 『環境と情報の人間学』
青木書店 2000年9月
14. 『環境哲学の探求』
大月書店 1996年11月
15. 『ハーバマスを読む』(共編著)
大月書店 1995年9月
16. 『現代コミュニケーションと共生・共同』
青木書店 1995年6月
17. 『思想としてのコミュニケーション』
大月書店 1995年1月

18. シリーズ『ラディカルに哲学する』（全5巻, 共編著）
大月書店 1994-1995年
19. 『国際化時代に生きる日本人』（共編著）
青木書店 1992年10月
20. 『遊びと生活の哲学』
大月書店 1992年7月
21. 『「豊かな日本」の病理』（共編著）
青木書店 1991年8月
22. 『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』
大月書店 1989年7月
23. 『ターミノロジー学』（共編著・翻訳）
文理閣 1987年6月
24. 『哲学のリアリティ』（共編著）
有斐閣 1986年11月
25. 『言語と人間』
大月書店 1983年2月
26. 『近世の哲学者たち』（共編著）
三和書房 1979年6月
27. 『ヘーゲル「論理学」入門』（共編著）
有斐閣 1978年3月

B.論文一覧

1. 「近代文明を超えて〈農〉を基礎にしたエコロジー文明へ——労働とコミュニケーションの思想的系譜にふれつつ——」
『「〈農〉の思想」の基本視座の現代的探求—環境・情報化社会の条件の下で（科研費報告論文集）』2012年2月, 7-26頁
2. Questioning Modern Civilization from the Perspective of "Agriculture"
Journal of Environmental Thought and Education 2010年12月, 第4号, 185-190頁
3. 「〈農〉の思想と新たな文明への視座」
『環境思想・教育研究』2010年12月, 第4号, 56-67頁
4. 「ドイツにおける〈農〉の実践をめぐる思想と環境教育」
『環境思想・教育研究』2010年12月, 第4号, 214-217頁
5. 「環境哲学と脱近代文明への視座——〈農〉を基礎にしたエコロジー文明」
Environmental Philosophy : Official Journal of the Korean Society for the Study of Environmental Philosophy (Korea) 2010年10月, 第10号, 143-167頁
6. 「農の思想から近代文明を問う」
『人権21:調査と研究』2010年10月, 第208号, 17-24頁
7. "Kyosei" between Human and Nature and "Artificial"
『環境思想・教育研究』2009年12月, 第3号, 96-98頁
8. 「〈農〉の思想と持続可能社会」
『環境思想・教育研究』（環境思想・教育研究会編）2009年12月, 第3号, 51-61頁
9. Environmental Ethics and Reverberations of Modern Philosophy
『環境思想・教育研究』2008年11月, 第2号, 92-100頁
10. 「環境問題と脱近代の哲学」
『季論21』2008年10月, 第2号, 48-61頁
11. 「共生思想の基本理念を考える」
『共生思想研究年報2007』2008年3月, 第2号, 7-18頁
12. A Research into the Origin of Ecological Thought in Japan (Chinese)
ZHONGWAI RENWENJINGSHEN YANJIU (China) 2008年1月, 第1号, 340-349頁
13. Innovation of Views of the Human Being and Solution to Philosophical-Social Problems in the 21st Century
Journal of Environmental Thought and Education 2007年11月, 第1号, 88-92頁
14. 「環境正義と共生型持続社会」
『環境思想・教育研究』2007年11月, 第1号, 11-19頁

15. College Education in the 21st Century and Idea of Symbiosis (Chinese)
Journal of Zhejiang Shuren University (China) 2007年11月, 第6号, 58-62頁
16. 「リレー式・人権講座(11)『自然の権利』について——『動物の権利』にふれつつ」
『人権21:調査と研究』2007年10月, 第190号, 23-31頁
17. 「環境問題の現実を改善に導く哲学思想」
『環境会議』2007年9月, 第28号, 100-103頁
18. 「人間観の革新と21世紀の課題解決へ向けて」
『総合人間学』2007年5月, 第1号, 145-158頁
19. 「環境正義と共生理念」
『環境的正義の実現のための共生理念及び情報技術の思想的意義の研究(科研費報告論文集)』2007年4月, 1-13頁
20. 「心と人間性の基礎としての”自然さ”」
『現代の教育危機と総合人間学』(学文社)2006年11月, 88-114頁
21. 「情報学と人間」
『総合人間学の試み』(学文社)2006年11月, 169-190頁
22. 「ドイツと環境思想」
『ドイツ語圏文化叢書』2006年9月, 第2号, 72-93頁
23. 「人間と子どもの思想」
『人間と教育』2006年6月, 第50号, 4-14頁
24. 「社会理論再構築の視座と基本カテゴリーの検討」
『人間と社会』2006年3月, 第17号, 67-76頁
25. 「現代の歴史的唯物論を再構築する新たな試み—コミュニケーション論と環境論の視点から」
『マルクス主義と現実』(中国雑誌)2005年12月, 第6号, 12-15頁
26. 「現代コミュニケーションの光と影」
『社会情報』2005年5月, 第14巻, 第2号, 21-37頁
27. 「現代環境思想の構築と日本エコロジー思想の伝統」
『環境思想研究』2005年3月, 第1号, 10-20頁
28. “Kyosei” and Sustainable Society : From the Viewpoint of Environmental Philosophy
Yearbook of the Artificial 2005年2月, 第4号, 197-216頁
29. 「人間存在と〈自然さ(ナチュラルさ)〉の理念」
『季刊 唯物論研究』2005年2月, 第91号, 40-53号
30. 「共生理念と持続可能な社会」
『人間と社会』2004年3月, 第15号, 11-26頁
31. 「倫理学を超えた学問としての環境哲学」

- 『人間会議』 2003年12月, 第9号, 208-211頁
32. 「自然観の多様な展開」
『環境問題資料集成』 2003年6月, 第14号, 405-412頁
33. 「心身問題・情報化・エコロジー」
『唯物論研究年誌』 2001年10月, 第6号, 135-159頁
34. 「成長の限界と人間・生命の危機」
『環境と人間』(岩波書店) 2000年11月, 181-203頁
35. 「相対主義と共生・共同」
『唯物論研究年誌』 2000年1月, 第4号, 1頁
36. 「日本の自然観と現代環境思想」
『東洋的環境思想の現代的意義』(農山漁村文化協会)1999年3月, 278-297頁
37. 「今西錦司の自然観と認識方法」
『人間と社会』 1998年7月, 第9号, 1-18頁
38. 「『人間と自然の二元論』を巡る生物学と哲学の接点」
『生物科学』 1998年7月, 第50巻, 第2号, 65-79頁
39. 「『情報化社会』における人間存在」
『哲学』 1997年4月, 第48号, 54-68頁
40. 「哲学とプロセス知 ホワイトヘッドのプロセス哲学にふれて」(岡谷大との共同論文)
『新工学知 1.技術知の位相 プロセス知の視点から』(東京大学出版会)1997年4月,
145-160頁
41. 「医師と患者のコミュニケーション」
『月刊保団連』 1997年3月, 第555号, 6-10頁
42. 「メディア・コミュニティの光と影」
『日本の科学者』 1996年6月, 第31巻, 第9号, 2-5頁
43. 「哲学と情報概念」
『社会と情報』 1996年5月, 第1号, 58-65頁
44. 「自然における目的概念について」
『人間と社会』 1996年4月, 第7号, 165-182頁
45. 「『いじめ』から考える現代社会の問題性」
『月刊 社会教育』 1996年2月, 第40巻, 第2号, 12-18頁
46. 「コンピュータ化・情報化と社会・教育の変容」
『教育』 1994年10月, 第44巻, 第10号, 通巻第579号, 73-82頁
47. 「環境・生活世界の保全と社会構造の問題」
『東京農工大学一般教育部紀要』 1993年4月, 第30号, 1-12頁
48. 「コミュニケーションの力と環境を考える」
『子どもと教育』 1993年12月, 第257号, 54-59頁

49. 「現代社会における遊びの意義」
『一橋大学体育共同研究室編 研究年報 1993 年版』1993 年 8 月, 41-46 頁
50. 「人工知能問題と意識論の深化」
『思想と現代』1993 年 4 月, 第 33 号, 27-39 頁
51. 「人間行動と社会・文化的環境」
『人間と社会』1993 年 4 月, 第 4 号, 1-12 頁
52. 「労働の意味と人間的に豊かな社会」
『日本の科学者』1993 年 3 月, 第 28 卷, 第 4 号, 23-28 頁
53. 「労働——マルクス」
『現代哲学を学ぶ人のために』(世界思想社) 1992 年 12 月, 18-33 頁
54. 「人間実践の概念とマルクス主義」
『マルクス主義思想 どこからどこへ』(時潮社) 1992 年 10 月, 23-43 頁
55. 「〈コミュニケーション〉と変革思想の現代化」
『社会主義を哲学する』(大月書店)1992 年 5 月, 74-105 頁
56. 「人間と遊び」
『東京農工大学一般教育部紀要』1992 年 4 月, 第 28 号, 1-24 頁
57. 「現代の教養と人間・自然観」
『思想と現代』1991 年 7 月, 第 26 号, 7-39 頁
58. 「人間的自由と決定論」
『人間と社会』1991 年 3 月, 第 2 号, 11-26 頁
59. 「人間自然科学部構想と一般教育改革」
『一般教育学会紀要』1991 年 11 月, 第 13 卷, 第 2 号, 通巻第 24 号, 43-46 頁
60. 「言語的コミュニケーションと労働のプロブレマティーク」
『日本福祉大学社会科学研究所紀要』1989 年 7 月, 第 4 号, 15-28 頁
61. 「現代の人間観について」
『日本の科学者』1989 年 7 月, 第 23 卷, 第 7 号, 2-8 頁
62. 「概念と意味についての考察」
『東京農工大学一般教育部紀要』1988 年 3 月, 第 25 号, 1-21 頁
63. Was ist der Begriff?
Terminology and Knowledge engineering(ed.Hans Czap/Galinski) 1987 年 9 月, 11-20 頁
64. 「メディア・情報・人間」
『思想と現代』1987 年 7 月, 第 10 号, 21-38 頁
65. Aspekte der Kommunikation im Japan Heute und die Problematik des Menschen
『東京農工大学一般教育部紀要』1987 年 4 月, 第 23 号, 1-8 頁
66. 「現代における『生きる力の獲得』と教育の力」

- 『現代社会とマルクス主義の自己診断』(梓出版社) 1987年3月, 125-149頁
67. 「カント」「新カント派」
『西洋哲学史概説』(有斐閣) 1986年4月, 「カント」:250-274頁, 「新カント派」:432-437頁
68. 「コンピュータと人間」
『コンピュータ革命と現代社会』(大月書店) 1985年11月, 39-71頁
69. 「文学・言語・人間」
『現代と唯物論』 1985年9月, 第9号, 1-11頁
70. 「現代の言語観・人間観を問う」
『ニューアカデミズム』(新日本出版) 1985年6月, 164-210頁
71. 「近代市民社会と言語の問題」
『市民社会の哲学と現代』(青木書店) 1984年4月, 47-86頁
72. 「現代の言語・コミュニケーションと人間の問題」
『日本の科学者』 1983年10月, 第18巻, 第10号, 2-5頁
73. 'ПРИРОДА ЯЗЫКА И «ОТЧУЖДЕНИЕ»'(Russian)
"ЯПОНСКИЕ МАТЕРИАЛИСТЫ" 《НАУКА》 1985年, 95-132頁
74. 「言語・その哲学的問題性」「言語の思想家——ヴィトゲンシュタイン」
『哲学を学ぶ人のために』(白石書店) 1983年7月, 「言語・その哲学的問題性」:268-278頁, 「言語の思想家——ヴィトゲンシュタイン」:294-298頁
75. 「言語・実践・弁証法をめぐって」(佐藤和夫との共同論文)
『唯物論』 1982年7月, 第56号, 9-30頁
76. 「言語の起源と労働・意識・コミュニケーション」
『東京農工大学一般教育部紀要』 1981年3月, 第18号, 1-26頁
77. 「言語・コミュニケーションと『疎外』」
『東京農工大学一般教育部紀要』 1980年3月, 第17号, 1-13頁
78. 「形態 (Form) についての若干の考察」
『東京農工大学一般教育部紀要』 1979年3月, 第16号, 1-15頁
79. 「言語・コミュニケーション・人間」
『唯物論研究』 1980年11月, 第3号, 28-47頁
80. 「経験と真理——ヘーゲル『現象学』緒論の意義に触れて」
『東京農工大学一般教育部紀要』 1979年3月, 第15号, 1-9頁
81. 「ヘーゲルにおける個人と道徳的自由の問題」
『倫理学研究』 1978年3月, 第8号, 26-35頁
82. 「カントにおける変化・時間・矛盾律について」
『唯物論』 1977年11月, 第8号, 230-247頁
83. 「言語の模写性と創造性について」(第4回戸坂潤賞・受賞論文)

- 『現代と思想』1977年9月, 第29号, 230-248頁
84. 「ヘーゲル『論理学』と言語」
『言語』1977年9月, 第6巻, 第10号, 94-99頁
85. 「言語論的視角からヘーゲル『反照』論の一理解」
『哲学』1976年5月, 第26号, 151-162頁
86. 「ヘーゲル哲学と言語の問題」
『博士課程研究論文要旨集 昭和48年度版』(京大大学院)1974年3月, 54-60頁
87. 「ヘーゲルの『概念』について」
『哲学論叢』1974年2月, 第1号, 52-63頁
88. 「W. ベッカーによる『ヘーゲル弁証法と形式論理学』の理解」
『現代と唯物論(昭和48年度版)』1973年10月, 第1号, 89-102頁
89. 「ヘーゲルにおける矛盾と概念把握の問題」
京都大学大学院・修士論文 1971年1月

C.その他 (エッセイ・翻訳・書評・辞典・対談など)

1. 「南ドイツにおける〈農〉をめぐる思想と環境教育—2009 年度研究調査報告—」(東方沙由理・大倉茂・布施元との共同調査報告)
『「〈農〉の思想」の基本視座の現代的探求—環境・情報化社会の条件の中で(科研費報告論文集)』2012年2月, 91-93頁
2. 「デンマーク・北ドイツにおける〈農〉をめぐる思想と環境教育—2010 年度研究調査報告—」(東方沙由理・大倉茂・布施元との共同調査報告)
『「〈農〉の思想」の基本視座の現代的探求—環境・情報化社会の条件の中で(科研費報告論文集)』2012年2月, 94-97頁
3. 'A Review of Joel Kovel's *The Enemy of Nature: The End of Capitalism or The End of the World?* (書評)
『環境思想・教育研究』2011年12月, 第5号, 215-216頁
4. 「書評 竹内貞雄『情報と自律性の管理——IT化する現代管理の物象化論』(つながりを創る——共生的自立・自律への探求)」(書評)
『市民の科学』2011年, 第3号, 173-177頁
5. 「アルネ・ネスに安らかな眠りを」(東方沙由理との共訳)
『環境思想・教育研究』2009年12月, 第3号, 4-9頁
6. 「サステイナビリティを描いた哲人< I > イマヌエル・カント」「サステイナビリティを描いた哲人< II > 宮沢賢治」(解説)
『人間会議』2009年12月, 第21号, 2-3頁, 4-5頁
7. 「サステイナビリティを描いた哲人< I > レイチェル・カーソン」「サステイナビリティを描いた哲人< II > 今西錦司」(解説)
『環境会議』2009年9月, 第32号, 2-4頁, 4-5頁
8. 「サステイナビリティを描いた哲人< I > ジャン=ジャック・ルソー」「サステイナビリティを描いた哲人< II > 安藤昌益」(解説)
『人間会議』2009年6月, 第20号, 2-3頁, 4-5頁
9. 「サステイナビリティを描いた哲人< I > アルネ・ネス」「サステイナビリティを描いた哲人< II > 田中正造」(解説)
『環境会議』2009年3月, 第31号, 5-6頁, 7-8頁
10. 「環境的に持続可能な文明の創造」(布施元との共訳)
『環境思想・教育研究』2008年11月, 第2号, 143-151頁
11. 「共同体のミクロ生態学」(上柿崇英との共訳)
『環境思想・教育研究』2008年11月, 第2号, 135-142頁
12. 「物語と環境保護主義者の倫理及び政治」(布施元との共訳)
『環境思想・教育研究』2007年11月, 第1号, 134-146頁

13. 日中学術交流の報告(鹿島徹・王守華との共同報告)
『哲学』2007年4月, 第58号, 1頁
14. 『動物のいのち』(森祐希子との共訳)
大月書店 2003年11月
15. 「言うことは行うこと——オースティン」(解説)
『言葉がひらく哲学の扉』(青木書店)1998年3月, 87-89頁
16. 『社会学中辞典』(アバークロンビー他共訳書)
ミネルヴァ書房 1996年3月
17. 「環境問題の哲学・思想的深化」(巻頭言)
『人間と環境』1996年3月, 第22号, 1頁
18. 「談話室 言語起源再考と精神のエコロジー」(インタビュー)
『日本の科学者』1996年3月 第31号, 24-25頁
19. 「『ラディカルに哲学する』の提起するもの」(後藤道夫他との座談会)
労働旬報社 1995年11月, 6-43頁
20. 「自然と人間の共生ということ」(巻頭言)
『月刊社会教育』1994年5月, 第458号, 1頁
21. 「情報化社会のなかのコミュニケーション」(インタビュー)
『月刊社会教育』1991年11月, 第425号, 6-13頁
22. ザイフェルト「ドイツに於ける日本研究の考察」(翻訳)
『日本文化の諸相』(白石書店)1988年10月, 179-192頁
23. ヴェスター「世界の言語化」, エーザー「ターミノロジーと分類の標準化の限界」, ネドビティ「人工知能研究に対するターミノロジー学の意義」(翻訳。ネドビティ論文は岡谷大との共訳)
『ターミノロジー学』(文理閣、尾関・ガリンスキー編)1987年6月, 「ヴェスター」:27-67頁, 「エーザー」:97-106頁, 「ネドビティ」:148-162頁
24. 「『対話能力の喪失』について」(エッセイ)
『婦人通信』1986年8月, 第321号, 6-8頁
25. 「現代の思想状況と人間観・言語観」(エッセイ)
『夜明け』1986年3月, 第9号, 4-19頁
26. 「言語哲学」「コミュニケーション」「ハーバマス」「チョムスキー」(辞典項目)
『哲学辞典(第4版)』(青木書店), 1985年9月, 「言語哲学」:542頁, 「コミュニケーション」:545頁, 「ハーバマス」:555頁, 「チョムスキー」:553頁
27. 「『人間の尊厳』という言葉」(エッセイ)
『住民と自治』1985年8月, 第268号, 84-87頁
28. 「人間にとっての言語」(エッセイ)
『国語の授業』1984年12月, 第4号, 35頁

29. 「寺沢論文『意識とことば』へのコメント」(書評)
『唯物論』1983年8月, 第57号, 26-29頁
30. 「水原洋城『ニホンザル行動論ノート』書評」(書評)
『日本の科学者』1982年4月, 第17巻, 第5号, 52頁
31. 「大野晋『日本語の文法を考える』書評——日本語文法論への刺激的な視角」(書評)
『唯物論』1979年5月, 第11号, 214-216頁
32. 「経験」(辞典項目)
『経済学辞典』(大月書店)1979年4月, 「経験」:204-205頁

D.口頭発表・講演

1. 「近代文明を超えてエコロジー文明へ——農の人類史的意義と持続可能な社会」
総合人間学会談話会 2011年9月24日
2. 「孤立化からつながり合いへ——情報化社会における人間らしいコミュニケーションを求めて」
風の会 2011年3月6日
3. 「環境哲学と脱近代への視座」
International Environmental Philosophy Conference Seoul 2011 2010年12月11日
4. 「近代文明からエコロジー文明へ——労働とコミュニケーションの思想的系譜にふれつつ」
環境人間学 2010年10月23日
5. 「環境人間学——環境問題への『人間学的』アプローチ」
東洋大学「エコ・フィロソフィア」学際研究イニシアティブ 2010年10月23日
6. 「共生理念と持続可能社会の構築へ向けて」
第二回日中哲学フォーラム 2009年4月26日
7. 「共生思想の理念を考える」
シンポジウム「社会のなかの共生」 2007年12月15日
8. 「戦後における全国唯研の歴史と現代の課題」
全国唯研30周年記念シンポジウム 2007年11月19日
9. 「人間観の再構築と21世紀の課題解決へ向けて」
総合人間学会大会 2006年5月27日
10. 'Kyosei of Man and Nature and "the Artificial" '
International Workshop on Thinking through the "Kyosei"(Symbiosis) 2006年3月1日
11. 「環境思想の現在—ドイツにおけるエコフィロソフィーを中心に」
上智大学ドイツ語圏文化研究所 2006年1月12日
12. 「共生共同理念と社会理論の構築」
政治思想パラダイム転換研究会 2005年12月25日
13. 「社会理論再構築の視座と基本カテゴリーの検討」
日中唯物論研究交流会 2005年8月25日
14. 「共生理念の探究と現代」
日中・共生シンポジウム 2001年10月10日
15. 「言語的コミュニケーションと労働のプロブレマティーク」
日本福祉大学社会科学研究所 1989年1月
16. 「現代の人間観について」

第7回総合学術研究集会 1988年11月

17. 'Was ist der Begriff?'

*International Congress on Terminology and Knowledge Engineering. West Germany
Trier* 1987年9月

18. 「文学と言語、そして現代社会を考える」

全国児童言語研究会 1986年8月

19. 「コンピュータ・言語・人間」

一橋大学法学部コンピュータ問題研究会 1986年2月

20. 「情報・コミュニケーション・人間」

専修大学社会科学研究所 1986年1月

21. 「言語・記号・意識」

全国唯物論研究協会 1984年10月

22. 「人間にとっての言語」

全国児童言語研究会 1984年8月

23. 「言語コミュニケーション・労働・疎外をめぐって」

東京唯物論研究会 1981年4月

24. 「ヘーゲルにおける個人と道徳的自由の問題」

関西倫理学会 1976年11月

25. 「ヘーゲルの『矛盾』概念」

関西哲学会 1973年10月